

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 11日

事業所名 スマイルシップ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	0	状況に応じて、空間の使い方を判断している。	近隣で十分なスペースを確保できる物件を探す
	2	職員の配置数は適切である	4	0	0		人員を増やしていくが、現在のスタッフの教育も進めていけるように努める
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	0		
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	0		受け入れ前に、MTGなどで振り返りや対応のブラッシュアップに繋がるように、全体での意見交換などを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	0	保護者からのご意見を反映し、業務改善につなげるよう検討する場を設けている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0		HPにて公表している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	4		現在は第三者評価を実施できていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	0	研修後には、参加していない職員に向けての報告を行い内容を共有している	
適切 な 支 援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0	保護者の方に伺って作成	日頃の活動や保護者の方からのお話などから作成を心掛けている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	0		法人内でのツールを用いている。 他の事業所との交流などから研鑽していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0		チーム全体で行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0		四季や月毎、目的などに合わせて固定化しないようにしている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	0		時間の余裕によってしか体験できない活動もあるため、設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0		なるべく個別活動にならないようにしているが、集団活動に参加できるように作成していつている。

の 提 供						
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0	チーム全体で行っている。そのうえで役割など事前に確認して動きがスムーズになるように心掛けている。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	0		利用児の降所の時間によっては終了時に時間が確保できない場合には、翌日に実施している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0		日々、個人毎に記録をつけて、その後に全体共有することによって支援の改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	0	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	0	日程にもよるが対応できるスタッフなどで参加できている	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4	0	0	学校との情報交換や連絡は行えている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	3	1	現状対象者なし	医療ケアが必要な児童は在籍していないが、そのような場合には、職員配置についても検討していく必要がある
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4	0	現状対象者なし	義務教育課程を修了した児童はまだいないが、その際には連携を図っていきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	0	研修後には、参加していない職員に向けての報告を行い内容を共有している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	0	1	近隣の公園にでかけ、地域児童との交流を図っている	他施設との交流を検討していく
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	2	0	管理者が参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	0		

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	契約時に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	モニタリング以外でも共有ができるよう、連絡ツールを利用して対応している	今後も利用児への配慮を忘れず、電話やメールでも対応していきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	2		保護者の意見を取り入れながら、実施に向け検討していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	0		
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0		鍵付き書庫にて保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	1		感染症の流行やスペースの確保により実施が難しかったが、地域ボランティアの方の訪問等、検討していきたい
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	0	0	マニュアル改定ごとに読み合わせを実施している。	保護者への伝達方法を検討していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	年2回の実施。様子や説明を会報にてお知らせしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	0		活動時間によってはなかなか参加できない研修もあるため、事後享有も含め機会の確保に今後進めていけるようにする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	0		適宜、作成し報告したうえで改善策の提案と全体共有を行っている。